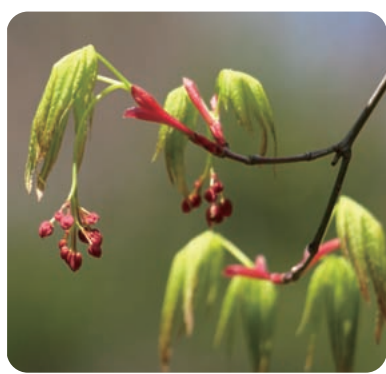


とうが 冬芽のいろいろ

冬芽のいろいろとその特徴

イロハモミジ
(かえで科)



冬芽は対生し、赤むらさき色の小さな円すい形(三角形)で先がとがる。2~4枚の芽鱗につつまれた鱗芽。冬芽の基部に一列にならぶ毛がある。

エゴノキ
(えごのき科)



冬芽は裸芽で互生し小さな長い卵型。裸芽には星状の毛が密生する。冬芽のすぐ下に副芽(予備の芽)を持っている。

とうが 冬芽

樹木は寒い冬を乗り切り春になると開く、特別な冬芽をつくります。冬芽は、木の種類によっていろいろちがったすがたをしています。

りんが らが 鱗芽と裸芽

芽を保護するための芽鱗(魚のうろこ状のもの)を持つ鱗芽とそれを持っていない裸芽とがあります。

ようが かが こんが 葉芽・花芽・混芽

〈葉芽〉
春になって芽が動き出して葉だけをつける芽

〈花芽〉
芽が動いて花になる芽

〈混芽〉
芽の中に葉と花を持つ芽

クロモジ
(くすのき科)



冬芽(葉芽)は3~4枚の芽鱗につつまれた紡錘形の鱗芽で先がとがる。花芽はほぼ球形で葉芽とならんで数個つける。

コナラ
(ぶな科)



冬芽はたくさんの芽鱗につつまれ5つの稜があり、赤茶色の鱗芽。茎の先端に数個の鱗芽をまとめてつける。

サンシュユ
(みずき科)



冬芽は枝の先端に頂芽(先端の芽)を1個つけ、側芽(枝のわきの芽)は対生につく。葉芽は2枚の芽鱗につつまれた鱗芽。花芽は球形で先端は急にとがる。

ハクモクレン
(もくれん科)



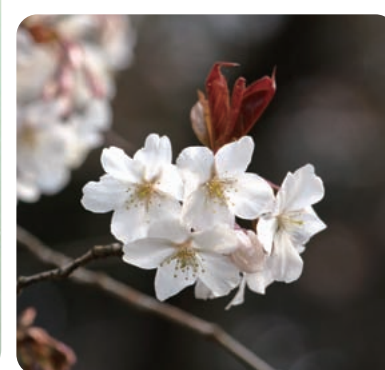
冬芽は互生し、長だ円形で先端はややとがり、長い軟毛をつけた大きな芽鱗につつまれる。花芽はほぼ上向きにつき、葉芽は小さいが花芽と同じように毛につつまれる。

ムラサキシキブ
(くまつぶら科)



冬芽は葉脈の見える裸芽で、枝の先端に頂芽を1個つけ、側芽は対生し先端はとがる。裸芽には柔らかい毛が密生し灰褐色。

ヤマザクラ
(ばら科)



冬芽は互生し、長い卵形で先端はややとがり、多数の芽鱗につつまれ赤褐色。花芽は葉芽と比べると、明らかにふっくらとした長い卵型。